

## 慶長伏見地震の爪跡

1596年9月5日に発生した慶長伏見地震は、京阪神地域に著しい被害をもたらした。考古学の発掘調査ではいたる所で、この地震に伴う液状化の痕跡が顔を出している。そして、1995年度に地質調査所が実施した活断層のトレンチ調査で有馬-高槻構造線活断層系がこの地震の際に活動したことが判明した。

(詳しくは本文23-31頁参照)

〈地質調査所 大阪地域地質センター 寒川 旭〉



1. 京都府八幡市の内里八丁遺跡で検出された液状化跡  
(幅約40cmの割れ目から噴砂が上昇している)。

2. 京都府八幡市の木津川河床遺跡で検出された液状化跡  
(液状化した砂層が地下で盛り上っている)。

3. 大阪府茨木市の真上断層上で行われた活断層のトレンチ調査(室町時代およびそれ以前の地層が垂直方向に約50cm変位している)。

